マーケットデイリー

2019年12月5日　情報提供資料

三井住友DSアセットマネジメント

今日のトピック　業績見通し改善で、堅調な推移が期待される日本株式市場

大きく改善するリビジョン・インデックス

ポイント1　フェーズ1合意に対する不透明感から調整

ただ、4日の米国株式市場は落ち着いた動き

■ 4日の日本株式市場は、米国株式市場の下落と円高進行を背景に調整しました。米トランプ大統領が米中交渉を急がないと発言したことからフェーズ１合意が遅れる可能性が高まったこと、ロス米商務長官が12月15日の追加関税発動について言及したことなどから、再び緊張感が高まったことが背景です。ただ、米国のいわゆる恐怖指数（VIX）は3日に16.0に上昇したものの、4日には14.8まで低下し、NYダウ平均株価も前日比146.97ドル上昇して2万7,649.78ドルで引けるなど、落ち着いた反応を示しています。

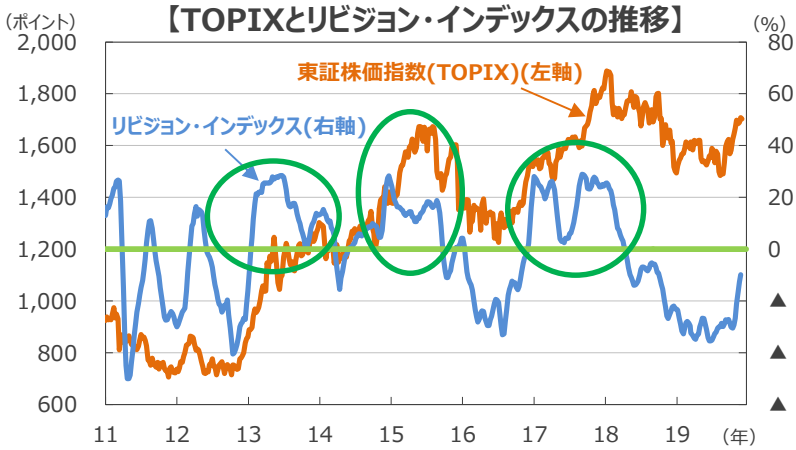
ポイント2　米中交渉は引き続き進展すると期待される

追加関税発動前のフェーズ1合意の可能性

■ 市場は今回のトランプ大統領の発言を比較的冷静にとらえているようです。仮に追加関税が発動されたとしても、これまでの追加関税の影響が徐々に薄れる可能性が指摘される中、今後のグローバル景気の回復に致命的な影響を与えないと見られること、その後は大統領選挙戦に向けた動きが活発化する中で、米中の景気に悪い影響を及ぼす対策を打つ可能性が極めて低いこと、などが背景です。米国の交渉担当者の発言として、追加関税の発動前にフェーズ1合意が完了する可能性があると報道されるなど、米中交渉の進展が期待できます。

今後の展開　明るさを増す業績見通し。日本株は堅調な推移が期待されよう

■ 日本株式市場は、米中交渉次第で調整する局面も想定されますが、総じて堅調な推移が期待できそうです。特に業績見通しの改善度合いを示すリビジョン・インデックスが大きく上昇している点が注目されます。2011年以降でリビジョン・インデックスが底打ちし、ゼロを上回る期間が1年程度に及ぶ局面は3回あります。底打ちからゼロを上回る局面で株価は堅調さを維持する傾向が確認されます。年末から2020年1月にかけてゼロを上回る可能性があります。日本株式市場は、明るさを増す業績見通しが支えになると考えられます。



（注1）データは2011年1月6日～2019年12月4日。リビジョン・インデックスは11月28日まで。週次ベース。

（注2）リビジョン・インデックス：当期利益のコンセンサス予想をベースに、（上方修正件数－下方修正件数）÷（上方修正件数＋下方修正件数）で計算。4週移動平均。当期利益は12カ月先ベースで、リフィニティブI/B/E/S予想。

（出所）Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック！
2019年12月　4日　投資環境の見通し（2019年12月号）
2019年11月26日　2019年12月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。